

テスト設計コンテスト U-30 クラス – アピールシート

チーム ID	S220419003	チーム名	はじめての共同作業
--------	------------	------	-----------

チームの紹介

この項目ではチームやメンバーの紹介、チーム全体の基本コンセプトを記述します。

チーム紹介

・メンバーのバックグラウンド

私たちは同じ会社の同期で、普段からテスト関係の業務に携わっています。社外活動では、資格勉強や勉強会への参加などお互いに切磋琢磨しています。

・今回の参加目的

お互いにテスト上流設計について学習はしていたものの実践経験がなかったため、テスト設計を実践し有識者に評価して頂く機会としてテスト設計コンテストに参加いたしました。

・チーム名の理由

メンバーは業務で関わる機会はなく、今回のテスト設計の実践を通じて”はじめて”作業を共にすることとなりました。また、お互いのこれまでの経験・知識を”共同作業”を通じて相互研鑽をしたいという想いから、”はじめての共同作業”というチーム名にしました。

・意気込み

“脱”CPM(Copy & Paste & Modify)法！

全体のコンセプト

- ・高品質なテスト分析・設計
- ・ステークホルダの意思決定への貢献

チームのテスト設計の強み・アピールポイント

・高品質なテスト分析・設計

- テスト目的に合致したテスト戦略策定とテスト要求分析戦略策定
- 要求仕様ベースとリスクベースのテスト分析
- テスト設計技法適用し網羅的なテストデータを抽出

・ステークホルダの意思決定への貢献

- 目的やステークホルダに応じたテスト観点の構造化

※ 全体でA4縦 4 ページに収まるように記述してください。

- テストコンテナを活用したリプランを提案
- ステークホルダへの説明・合意形成がしやすいテストカバレッジ管理

チームの戦略・方針

この項目では、チームの作業の進め方や成果物の特徴を、設問に従って記述します。他文書（審査対象の成果物など）への参照で記述しても構いません。

プロセスの説明

チームのテスト設計のプロセス（テスト要求分析・テスト詳細設計といったアクティビティと、テストケースといった成果物の関連性）の全体像を、モデル（PFD やアクティビティ図など）や文章で示してください

テスト要求分析のアクティビティと成果物の関連性を全体 PFD と各工程の PFD で定義し記述した。（以下参照）

- ・はじめての共同作業_成果物 0_プロセス全体像.pdf
- ・はじめての共同作業_成果物 1_001_要求分析プロセス定義.pdf
- ・はじめての共同作業_成果物 2_001_テストアーキテクチャ設計プロセス定義.pdf
- ・はじめての共同作業_成果物 3_001_テスト詳細設計プロセス定義.pdf
- ・はじめての共同作業_成果物 4_001_テスト実装プロセス定義.pdf

テストベースからテストケースやテスト手順までのトレーサビリティをどのように確保しているか説明してください

要求仕様:テスト観点:テストケースを1:1:1とすることでトレーサビリティの管理を容易化し、上位テスト要素のトレーサビリティ ID を下位テスト要素のトレーサビリティ ID で継承させ双方向トレーサビリティを確保した(①)。また、前記構成にすることで、テストケースはテスト観点 ID に”TC”を付加するだけに単純化(②)。

例①) 要求仕様: pot-210 ⇔ 詳細仕様: **pot-210-TRReq-001**

例②) 詳細仕様: pot-210-TRReq-001 ⇔ テストケース ID: pot-210-TRReq-001-**TC**

※ 全体でA4縦 4 ページに収まるように記述してください。

テストの構造の説明

採用したテストアーキテクチャが一般的なものより優れているポイントを記述してください

- ・ 目的(ステークホルダ)に応じたテストコンテナモデルの採用
- ・ ステークホルダ向けのテストコンテナ評価モデルとテスト実行優先度決定目的のテストコンテナ実行モデルを適用した。

テストベースに対する網羅性の確保(目的を満たすようにテストベースを網羅する)で、どのような工夫をしたか記述してください

- ・ ラルフチャートの上流適用によりテスト観点・リスク要因のテスト観点的網羅的抽出
- ・ 関連仕様マトリクスの活用による要求跨ぎのテスト観点抽出
- ・ FTA を用いたリスクベーステストによる仕様外のリスク観点抽出

テストベースに対するピンポイント性の確保(無駄なテストを作らない)で、どのような工夫をしたか記述してください

- ・ テスト観点に対してテストケースを1対1にすることで、テストケースが膨大になることを防ぐ
- ・ テスト観点に対して、適切にテスト技法を適用

※ 全体でA4縦 4 ページに収まるように記述してください。

活用した技法や手法の説明

以下のテスト設計技法のうち、今回使用したものを選択してください(記述内容のうち、使用した技法を残し、使用していないものを削除してください。各定義は JSTQB に従います)

同値分割法、境界値分析、デシジョンテーブル、ユースケーステスト、エラー推測

テスト設計についての既存の方法論(HAYST 法、VSTeP、ゆもつよメソッドなど)や体系(ISO29119、STEP など)で、今回使用したものがあれば記述してください

- ・ ゆもつよメソッド (テスト分析の考え方(機能の整理と再分類→フィーチャー抽出)
- ・ HAYST 法 (FV 表,ラルフチャート,FL 表)